

地産地消国際シンポジウムの参加申込について

参加申込方法

●インターネットでお申し込みの場合

http://www.jaec.org/event/forum/index.htm へアクセスして参加申込フォームにご入力下さい。

●FAX、郵送でお申し込みの場合

下記必要事項を記入の上、開催事務局あてにお申し込み下さい。(この様式をコピーしていただいても結構です。) おひとり1枚のお申し込みをお願いします。

申込締切日 平成19年11月22日(木)

※先着750名に「入場券」をお送りしますので、お早めにお申し込み下さい。

※席に余裕がある場合のみ締切日以降でも申込をお受けしますので、事務局までお問い合わせ下さい。

開催事務局 (申込先)

社団法人国際農業者交流協会 (担当: 情報交流課 青木・窪田)

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-39-2 明治安田生命蒲田駅前ビル 6階

TEL: 03-5703-0253 FAX: 03-5703-0255

ホームページ http://www.jaec.org/ e-mail: symposium@jaec.org

参加者氏名	フリガナ
送付先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先
勤務先(所属団体)名	送付先が勤務先の場合、必ずご記入ください
部署名	送付先が勤務先の場合、必ずご記入ください
役職名	送付先が勤務先の場合、必ずご記入ください
送付先〒	
送付先都道府県	
送付先市区郡町村以下	
送付先ビル名等	
連絡先	TEL FAX
メールアドレス	
性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
年齢(年代)	<input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代以上
職業 最も当てはまるもの1つ	<input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 主婦・主夫 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> パート・アルバイト <input type="checkbox"/> その他()
業種	<input type="checkbox"/> 生産者・生産者団体 <input type="checkbox"/> 消費者・消費者団体 <input type="checkbox"/> 行政関係者 <input type="checkbox"/> 食育関係者 <input type="checkbox"/> 研究・教育関係者(食育を除く) <input type="checkbox"/> 流通・小売・外食産業関係者 <input type="checkbox"/> スローフード関係者 <input type="checkbox"/> その他()
このシンポジウムの開催を何で知りましたか? 複数回答可	<input type="checkbox"/> インターネット、メルマガ等 <input type="checkbox"/> 新聞・広報紙等 <input type="checkbox"/> 案内文書 <input type="checkbox"/> ポスター、リーフレット <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> その他()
備考 何かございましたら自由にご記入	

地産地消 国際シンポジウム

参加費無料 (事前申し込みが必要です)
同時通訳あり
抽選でこだわり農産物プレゼント



みんなで考えよう、地産地消 —『食』の豊かさと安心を結びあう—

平成19年12月6日(木) 10:00~17:00

国立オリンピック記念青少年総合センター「カルチャー棟 大ホール」(東京都渋谷区)

[主催] JADC 社団法人 国際農業者交流協会 (JAEC) [提唱] 農林水産省

後援(順不同・予定) ●内閣府、外務省、文部科学省、国土交通省、在京アメリカ合衆国大使館、駐日欧州委員会、東京都、全国知事会、全国市長会、全国町村会、NHK、読売新聞社、日本農業新聞、全国農業新聞、社団法人家の光協会、社団法人農山漁村文化協会、全国農業協同組合中央会、独立行政法人農畜産業振興機構、全国農業会議所、社団法人日本農業法人協会、社団法人中央畜産会、全国酪農協同組合連合会、社団法人全国酪農協会、社団法人日本酪農乳業協会、財団法人日本食肉消費総合センター、財団法人都市農山漁村交流活性化機構、全国森林組合連合会、日本特用林産振興会、全国漁業協同組合連合会、社団法人大日本水産会、社団法人マリノフォーラム21、社団法人全国農業改良普及支援協会、社団法人全国農村青少年教育振興会、社団法人農山漁村女性・生活活動支援協会、日本ブランド農業事業協同組合、農林中央金庫、農林漁業金融公庫、全国消費者団体連絡会、日本生活協同組合連合会、消費科学連合会、日本商工会議所、社団法人日本フードサービス協会、日本チェーンストア協会、日本スーパーマーケット協会、スローフードジャパン、財団法人日本食生活協会、食を考える国民会議、全国学校給食会連合会、社団法人全国学校栄養士協議会

地産地消国際シンポジウム

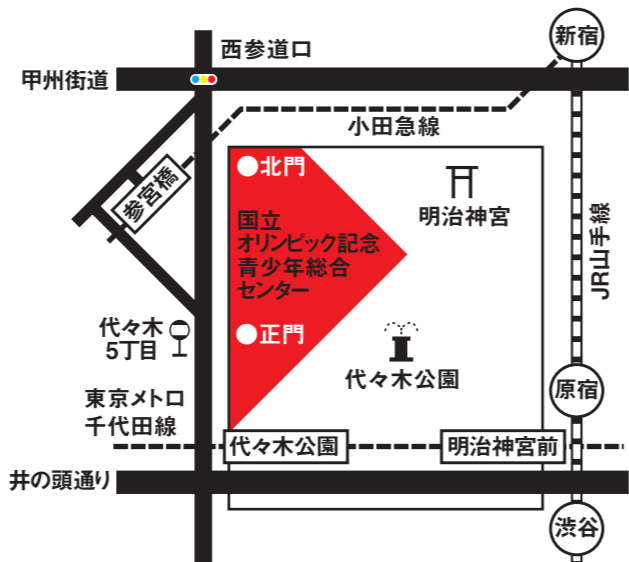
日時○平成19年12月6日(木) 10:00~17:00
 会場○国立オリンピック記念青少年総合センター「カルチャー棟 大ホール」(東京都渋谷区)
 テーマ○みんなで考えよう、地産地消 —「食」の豊かさで安心を結びあう—

9:15~10:00	受付(開場9:30)
10:00~10:30	開会式
10:30~11:00	基調講演(課題提唱) ●日本における地産地消活動の現状と課題 ○永木正和 氏(筑波大学大学院・生命環境科学研究科教授)
11:00~12:30	外国講師による海外事例発表 ●アメリカ合衆国における「地域支援型農業(CSA)」 ○アンドリュー・スタウト 氏(アメリカ合衆国ワシントン州CSA農場経営者) ●EUにおける「安全・安心なブランド作り」 ○レオ・ベルトツツイ 氏(イタリアパルミジャーノ・レッジャーノ・チーズ協会事務局長)
12:30~13:30	昼食休憩(各自昼食)
13:30~16:45	パネル・ディスカッション及びフロアとの対話 コーディネーター ○栗田庄一 氏(社団法人農山漁村文化協会常務理事) パネリスト ○横澤芳一 氏(農業経営者、スローフード山形会員) ○齋藤文子 氏(生活協同組合バルシステム神奈川ゆめコープ理事長) ○埋橋恵美 氏(長野県長谷学校給食共同調理場学校栄養職員) ○田邊清一郎 氏(株式会社銀たなべ代表取締役社長) ○矢羽田雄一郎 氏(大分大山町農業協同組合流通加工事業部外務係長) ○アンドリュー・スタウト 氏(アメリカ合衆国ワシントン州CSA農場経営者) ○レオ・ベルトツツイ 氏(パルミジャーノ・レッジャーノ・チーズ協会事務局長)
16:45~17:00	閉会式

○会場にて、地産地消に関するパネル展示も行います。

会場：独立行政法人
 オリンピック記念青少年総合センター
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
 電話：03-3467-7201

交通：小田急線「参宮橋駅」下車、徒歩7分
 京王バス
 ●新宿駅西口 16番乗場より「渋谷駅行き」
 ●渋谷駅西口 14番乗場より「新宿駅西口行き」
 いずれも「代々木五丁目」下車、正面(所要約15分)



基調講演講師
永木 正和 氏
 筑波大学大学院・生命環境科学研究科教授

帯広畜産大学畜産学部助教授、鳥取大学農学部教授を経て現職。専門は農業経済学(農業経営学、農業情報学、農村地域開発計画学等)。「消費行動とフードシステムの新展開」など、論文・著書多数。農林水産省の「食料・農業・農村政策審議会経営分科会」委員、「地産地消推進検討委員会」委員長、「全国地産地消推進協議会」副会長など多数の公職をこなし、地産地消の推進に尽力。



外国講師
アンドリュー・スタウト 氏
 アメリカ合衆国ワシントン州CSA農場経営者

有機農場での研修後、ワシントン州に3エーカーの農地を取得しフル・サークル・ファームの経営開始。現在は260エーカー、雇用者70人、年商500万ドルに規模拡大。75種にわたる果物、野菜、ハーブをシアトル市内のレストラン・青果店・ファーマーズマーケットに販売するとともに、毎週2,000箱を超える農産物を周年CSA契約者に提供。ワシントン・ティルス(有機農業団体)会長としても活躍。



外国講師
レオ・ベルトツツイ 氏
 パルミジャーノ・レッジャーノ・チーズ協会事務局長

1934年に設立された協会は、パルミジャーノ・レッジャーノ・チーズの生産・販売・原産地表示-EUレベルでDOP(保護指定原産地表示)として認証一を保護・管理し、製品の特質・特徴保護のために有効な企画事業、内外における消費の拡大のための活動を実施。品質認証システムを通じて消費者のあいだに「品質」の文化をゆきわたらせ、最上級品としての地位の確立を目指している。



コーディネーター
栗田 庄一 氏
 社団法人農山漁村文化協会常務理事・提携事業センター所長

(社)農山漁村文化協会の「現代農業」編集部次長、マルチメディア部長を経て、現職。「食育コンクール(提唱:農林水産省)」をはじめ、食育・農業・教育等のイベントを主催・企画・運営し、健全な食生活・食文化・食農教育の推進に尽力。地域に根ざした食育推進協議会委員、地産地消推進情報提供企画検討委員としても活躍。



パネリスト
横澤 芳一 氏
 農業経営者・スローフード山形会員

就農後、1年間のオランダ農業研修を経験。平成5年より米の直売を始め、平成7年山形県の品種「さわのはな」の栽培を開始。地元農業者とともに「さわのはな倶楽部」を結成して普及に努める。平成17年及び18年、米・食味分析鑑定コンクール品種部門で金賞受賞。また、在来作物「花作大根」の復活作戦を展開し、日本で第1回目の「味の箱舟」に認定される等、地域の伝統的な農作物の栽培・加工・販売を推進。



パネリスト
齋藤 文子 氏
 生活協同組合バルシステム神奈川ゆめコープ理事長

1985年けんぼく生協(現バルシステム神奈川ゆめコープ)加入。同生協理事、バルシステム連合会理事を経て、2004年現職。小田原地域で、農業者と消費者が協働する年間3,000人の都市と農村の交流事業に関わる。神奈川県都市農業推進審議会(委員)、日本食育学会(常任理事)、NPO法人小田原食とみどり(理事)等、食と農をテーマに積極的に活動中。趣味は、伝統的保存食作り、米作り。



パネリスト
埋橋 恵美 氏
 長谷学校給食共同調理場学校栄養職員・管理栄養士

長野県学校給食職員として、長野県内小中学校に勤務。地元の農業婦人らで作る「表わら帽子の会」が栽培した農産物を給食食材として取り入れ、食農・食育、そして生産者との交流に積極的に取り組んでいる。その実績をもとに、平成18年11月、第1回学校給食甲子園~地場産物を活かした自慢料理~に出場、長谷学校給食共同調理場は見事優勝の栄誉に輝いた。



パネリスト
田邊 清一郎 氏
 株式会社銀たなべ代表取締役社長

東京、大阪の日本料理店勤務の後、宮城県仙台市に戻り、昭和43年3月(合)銀たなべ商店に入社、専務就任。平成3年3月組織及び代表者の変更により銀たなべ代表取締役社長に就任。平成15年4月社団法人日本フードサービス協会副会長就任。平成18年度より同協会食育委員会会長に就任し、外食産業界における食育啓蒙に尽力。



パネリスト
矢羽田 雄一郎 氏
 大分大山町農業協同組合流通加工事業部外務係長

大山町農協から派遣され中国蘇州大学へ2年間留学。渉外部(現:流通加工事業部)に配属され、平成17年6月外務係長に就任。現在に至る。同農協は急峻な地形や狭い耕地という農業にとって不利な条件を知恵と工夫で克服し、「農家を潤すこと」を経営哲学として一村一品運動の草分として中山間地域農業の活性化を進めてきた。農産物直販所「木の花ガルトン」や地元で採れた野菜を利用したバイキングレストラン等を展開している。